

環境を整える



習慣・こだわりを大切に

老人保健施設 居室



生活期リハビリテーション



患者様を囲む交流会



江澤理事長様

紙パンツを自分で履かれて患者さんの気持ちを体験された話は感動しました。
私は初めて履いた時は悔しくて辛くて洗面所で家内と号泣しました。
この悔しさ辛さ屈辱感は体験しないと気持ちはわからないと思います。

今の私の目標は、私の故郷香川県仁尾と第二の故郷宇部に帰る事です。
必ず奇跡を起こします。そう信じて毎日頑張って行こうと思います。

目からウロコ！医師のための介護体験実践講座 (2017年1月15日)

第1部：講義

「尊厳の保障」 岡山県医師会 理事 江澤和彦

「介護とは新しい価値観の創造である」

介護総合研究所「元気の素」代表 上野文規 先生

**医師のための
介護体験実践講座**

「尊厳を保障する」自立支援の実現に向けて
～介護の理論と実践の画期的手法～

講師：江澤和彦 先生
講師：上野文規 先生

日程：平成28年1月15日（日）10時～16時

参加費：無料（昼食希望の場合は実費、1,200円程度）

会場：倉敷スイートホテル（倉敷市中央3-5-2・1）

10:00～11:00 講義1 講師：江澤和彦 先生
11:00～11:30 講義2 講師：上野文規 先生
12:00～13:00 昼食
13:00～15:00 介護体験実践



2017年2月18日
(土)山陽新聞

医師もおむつや介助



医師たちを前に入浴介助を実演する上野さん（中央）

場合の感触も体験した。「介護は知らないことだらけと痛感した。今回の経験を訪問診療に生かしたい」と、参加した小谷医院（和気町）の小谷重光院長（57）。

講座は県の助成を受けて実施し、県医師会が2017年度以降も開講したい考え。医師でもある県医療推進課の田安慶昭課長（55）は受講後「医師には患者の尊厳や介護者の負担軽減への配慮が求められるだけに、貴重な機会になった。医療、介護の連携促進の一助となつてほしい」と話した。

医療、介護連携強化へ

「こつをつかめば重度 指導で説明した。の要介護者でも1人で介助できます」。1月中旬、師男女15人。高齢者役と倉敷市内の高齢者施設。介助者役を互に務め、講師の介護総合プロデュースの中心に奮闘した双方「上野文規さん（58）の身体的負担が少ない介助の手法を学んだ。『難』を使った入浴介助の支援」と高を上げる医師をせず長時間放置した。

「する側」「される側」体験講座

医師がおむつをはいて入浴介助。高齢者医療や訪問診療に携わる医師に介護する側、される側の立場を体験してもらった。この講座に、県医師会が取り組んでいる。介護の実情を知ってもらい、医療と介護の連携強化につなげる狙い。県医師会によると、全国でも珍しい試み。（大橋洋平）

に、上野さんが「今までが考えなすぎだったんです」と指摘する場面もあった。

患者の尊厳に配慮した自立支援に向け、医療者にも介護の視点を持つてもらおうと県医師会の江澤和彦理事（55）が企画した。この日のメニューは江澤理事、上野さんの講義と、介助実技の2本立て。医師たちは休憩を挟み約7時間、紙おむつを着脱し、おむつ内での実技の排せつ、おむつ交換をせずに長時間放置した。

職員へのお願い

● 当たり前3原則

- お客様を自分自身あるいは自分の大切な家族などに置き換え、
施されて好ましくないことがあれば、直ちに改善しましょう
- 自分の部署・病院・施設の都合はいっさい排除して、
社会的・道徳的・人道的に正しいかどうかで判断しましょう
- いつでも誰にでも堂々と全てをお見せできる仕事をしましょう
- 良き専門職である前に、良き社会人であれ！
- 「人」を大切に！ 「人」を支えよう！

尊厳の保障へ向けて

好き好んで病気や障害をきたしている人はいるはずもなく、誰もがその人にとっての本来の普通の生活を望んでおり、その生活の実現すなわち尊厳の保障を実行することが我々の役割である。